

教育実習ノートから

◆MさんからK先生へ

○月○日(月)はれ

○卒業した園で、実習できるのが嬉しくて、何日も前から楽しみでした。そのなつかしさのおかげで、すんなりと子どもの心に帰ることができました。今、この子はこの遊びに熱中しているな、言葉はかけない方がいい、とか、リレーのルールはわからなくても、バトンを持って走るだけで勝ち負けは関係なく、何度もおもしろがって走る子ども達の気持ちがとてもよくわかりました。

年長さんは砂場の上のぶどうを、脚立に乗って取っていました。お弁当の時に、一房の半分ずつ分け

ていただきました。

◆K先生からMさんへ

○卒業生が、時々、園庭のベンチに、腰かけている時があります。大人はもう子どもにはなれませんが、子どもになろうと努め、何度でも脱皮を繰り返して行って下さい。聖書の中にも「幼な子の如くならむば、天国に入るを得ず」という言葉があります。ぶどうの味……如何がでしたか。化学肥料など使われていないホンモノの甘さだと思います。本物に出会えるように、自分自身が本物になろうと努力して行って下さい。本物でなければ、本物を知ることとはできないのですから——。三週間が、意義ある日々でありますように。

◆MさんからK先生へ

○月○日（金）はれのちあめ もも組

○きょうは参観日で、運動会の親子遊戯をしました。みんな嬉しくて、お花の体操も上手でした。あこちゃんと、かずまさちゃんは、お母さんが見えず、私と三人でおどりました。あこちゃんはのってきませんでした。ふだんから独占欲が強く、私がほかの子と遊ぶと、ものすごく怒ったり、泣いたりします。どの子の気持も満してあげたいのですが、何もできなくて悲しくなります。

◆K先生からMさんへ

○あこちゃんは七月に赤ちゃんが産れて、何か不安定な状態なのです。性格とか環境によって違います。多かれ少なかれ動揺します。こういう場合、その子どもの要求を100%聞いてあげたいと思います。誰だって困っているときに、話をきいてあげたり、遊んであげたり、背中をさすってあげたりして可愛

がってあげれば嬉しいでしょう。どうぞあこちゃんのことを聞いてあげて下さい。そうすると、あこちゃんも先生の話をきいてくれるでしょう。

◆MさんからK先生へ

○月○日（月）はれ もも組

○あかねちゃんと砂場にいると、あこちゃんがきて、せっかく作ったプリンをこわそうとしたので、「あこちゃんはこの作りの作るのとっても上手ですよ、ここに作ってみて」と言うと、しばらくして作りはじめました。「一緒に木の実を拾おう」と言うので、拾って持っている、他の組の子が、どこかに落ちていたかを知りたがっていたので、「あこちゃんはとてもいいお目々なの、先生より沢山拾ったのよ、あこちゃんに教えてもらってね」と言うと、いつもは、「先生行ってよ、先生、来てよ」というのに、一人で得意になって教えに行きました。その

後も、お友達に分けてあげたり、「家に持って帰って弟にあげるの」と言っていました。あこちゃんを認めてほめてあげたのがよかったのか、運動会の練習も、フラフラしないで最後までやっていました。この園の先生方は、とてもよく子どもを見ていてほめることが多いと思います。子どもにとっても、先生にとっても、嬉しいことでしょう。

◆K先生からMさんへ

。あこちゃん、よかったですね、本気で愛すると、子どもにわかって貰えるものです。「愛」というものは不思議なもので、一人の子どもを真剣に愛することのできる人は、ほかの子どもも愛せる人なのです。一人の子どもをおろそかにする人は誰も愛せない人です。例えばお散歩に行つて、三十人中、一人が迷子になったら、その一人の子どもを探すでしょ

う。探している人の姿に、心に共鳴して、二十九人はじっとして待っているでしょう。愛は湧きいずる「泉」と同じです。新しい水が汲めどもつきぬ程、溢れてくるでしょう。

